レジメン登録フォーマット

申請年月日	平成30年9月12日	使用開始日			
登録診 登録診療	消化器内科・外科	申請医師	福永　睦	化学療法委員会承認年	平成　30 年　10 月
レジメン名	アービタックス【初回】＋イリノテカン（アプレピタントカプセル）				
疾患名	大腸がん	適応の備考	アービタックス初回患者の1コース目の計画登録にはこれを用いる。		
適応分類	進行再発		アービタックスをすでに使用している2回目以降の患者、2コース目以降の登録には、アービタックス【2回目以降】＋イリノテカンを使用すること。		
1コース日数	14　日間	総コース数	コース	催吐性リスク	day1：中等度、day8最少度
抗がん剤投与量・投与日	アービタックス400mg/㎡　day1,250mg/㎡　day8、イリノテカン150mg/㎡　day1				

治療スケジュール　・　投与日程（投与日は●）　（day）

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	主ルート 点滴静注	生食50mL	1 本 / body	15 分	●							●						
		ﾃﾞｷｻｰﾄ注射液6.6mg/2mL	1 本 / body		●							●						
		ﾎﾟﾗﾗﾐﾝ注5mg/1mL	1 本 / body		●							●						
2	主ルート 点滴静注	生食250mL	1 本 / body		●													
		アービタックス	400 mg / ㎡	2 時間	●													
	アービタックスと同量の生食を抜いてから混注する（合計250mLとする）		/															
3	主ルート 点滴静注	生食250mL	1 本 / body									●						
		アービタックス	250 mg / ㎡	60 分								●						
	アービタックスと同量の生食を抜いてから混注する（合計250mLとする）		/															
4	主ルート 点滴静注	生食100mL	1 本 / body	60 分								●						
			/															
5	主ルート 点滴静注	ｱﾛｷｼﾝ注ﾊﾞｯｸﾞ0.75mg50mL	1 本 / body	30 分	●													
			/															
6	主ルート 点滴静注	生食500mL	1 本 / body	90 分	●													
		イリノテカン	150 mg / ㎡		●													
			/															
7	主ルート 点滴静注	生食50mL	1 本 / body	5 分	●													
			/															
8	なし 経口投与	アプレピタントカプセル	/ 125 mg / body		●													
	分1　医師の指示通り		/															
9	なし 経口投与	アプレピタントカプセル	/ 80 mg / body			●	●											
	分1　医師の指示通り		/															

※並行して投与する場合は、コメントを入力する。（例：Rp2とRp3を同時に投与開始する。）

【投与上の注意】

ｱﾌﾟﾚﾋﾟﾀﾝﾄｶﾌﾟｾﾙ：各コースにおいて、投与期間は3日間を目安とする。成人で5日間・12歳以上の小児で3日間を超えて投与した際の有効性及び安全性は確立していない。

ｱﾌﾟﾚﾋﾟﾀﾝﾄｶﾌﾟｾﾙ：原則としてコルチコステロイド及び5-HT3受容体拮抗型制吐剤と併用して使用すること。

ｱﾌﾟﾚﾋﾟﾀﾝﾄｶﾌﾟｾﾙ：抗悪性腫瘍剤の投与1時間～1時間30分前に投与し、2日目以降は午前中に投与すること。

アービタックス：希釈は生食のみ。総液量を250mLに調製。

アービタックス：前投薬として、アービタックス投与前に、ポララミン注及びデキサート注が必要。

アービタックス：投与終了後は、infusion reactionを観察するため、1時間の観察時間が必要であり、単独投与の場合は初回アービタックス投与後生食100mLを1時間かけて滴下する。

アービタックス：投与速度は1回目のみ2時間、2回目以降1時間。

アービタックス：投与終了後は、本剤と同じ速度でラインを生食でフラッシュすること。

アービタックス：初回投与時は、400mg/㎡を2時間かけて投与、2回目以降は250mg/㎡を1時間かけて投与すること。

・day1 デキサート注は、3.3mgでも可